

# 日蓮大聖人御書全集

そやにゆうどうどのごしよ

## 曾谷入道殿御書

新版  
1389  
〜  
1390

そやにゆうどうどののしよ

# 曾谷入道殿御書

ぶんえい ねん がつ にち さい そやきようしん

文永11年(74) 11月20日 53歳 曾谷教信

じかいほんぎやくなん たほうしんぴつ なん 合 そうら お

自界叛逆難・他方侵逼の難、すでにあい候い了わんぬ。

思 おお たほう おんぞくあ こくない

これをもつておもうに、「多く他方の怨賊有つて国内を

しんりやく じんみん もろもろ くのう う とち たの

侵掠し、人民は諸の苦悩を受け、土地に楽しむところの

ところあ もう きようもん あ おぼ そうろう とうじ

処有ることなけん」と申す経文、合いぬと覚え候。当時

いき つしま どもん な そうら

の壱岐・対馬の土民のごとくに成り候わんずるなり。これ

ぶつぼう じゃけん

ひとえに仏法の邪見なるによる。

ぶつぼう じゃけん もう しんごんしゅう ほつけしゅう いもく

仏法の邪見と申すは、真言宗と法華宗との違目なり。

ぜんしゆう ねんぶつしゆう

せ そうら

もう あらわ

禅宗と念仏宗とを責め候いしは、このことを申し顕さ

りよう

ん料なり。

かんど

ぜんむい

こんごうち

ふくうさんぞう

おうわく

こころ

てんだい

漢土には、善無畏・金剛智・不空三蔵の誑惑の心、天台

ほつけしゆう

しんごん

だいにちきよう

ぬす

い

かえ

ほけきよう

かんじん

法華宗を真言の大日経に盗み入れて、還つて法華経の肝心

てんだいだいし

とく

かく

ゆえ

かんどめつ

にほんこく

と天台大師の徳とを隠せし故に、漢土滅するなり。日本国は、

じかくだいし

だいにちきよう

こんごうちようきよう

そしつじきよう

ちんごこつか

慈覚大師が、大日経・金剛頂経・蘇悉地経を鎮護国家の

さんぶ

と

でんぎようだいし

ちんごこつか

は

えいざん

三部と取つて、伝教大師の鎮護国家を破せしより、叡山に

あくぎしゆつたい

つい

おうぼうつ

あくぎ

かまくら

くだ

悪義出来して、終に王法尽きにき。この悪義、鎌倉に下つ

にほんこく

ほろ

て、また日本国を亡ぼすべし。

こうぼうだいし

じやぎ

なかなかけんねん

ひと

誑

弘法大師の邪義は、中々顕然なれば、人もたぼらかされ

もの

じかくだいし

ほけきよう

だいにちきようとう

りどうじしよう

しやく

ぬ者もあり。慈覚大師の法華経・大日経等の理同事勝の釈

ちじんすで

ゆる

ぐしや

しん

じかくだいし

は、智人既に許しぬ。愚者いかでか信ぜざるべき。慈覚大師

ほけきよう

だいにちきよう

しようにつ

きしよう

や

ひ

は法華経と大日経との勝劣を祈請せしに、箭をもつて日

いみ

じかくだいし

を射ると見しは、このことなるべし。これは、慈覚大師の

しんちゆう

しゆら

い

ほけきよう

だいにちりん

い

心中に修羅の入つて法華経の大日輪を射るにあらずや。こ

ほうもん

とうせい

えいざん

ほかにほんこく

ひともち

の法門は、当世の叡山その外日本国の人用いるべきや。

じつじ

にちれん

しゆみせん

な

もの

もしこのこと実事ならば、日蓮あに須弥山を投ぐる者に

わでしもち

さいごい

もう

あらずや。我が弟子は用いるべきや、いかな。最後なれば申

すなり。うら たも恨み給うべからず。きようきようきんげん恐々謹言。

じゅういちがつはつか

十一月二十日

そやにゆうどうどの

曾谷入道殿

にちれん日蓮

かおう花押